

ご挨拶



(公財)環境科学技術研究所は、青森県六ヶ所村への核燃料サイクル施設の立地にあたり、青森県からの要請を受け、放射性物質の環境動態や人の線量評価、低線量率長期被ばくの生体影響に関する調査研究を行い、放射線に関する正確な情報を広く発信することを目的として、平成2年に設立されました。環境動態に関しては、青森県や六ヶ所村の特産品であるリンゴやナガイモ、ヒラメなどに焦点を当て、放射性物質の蓄積や排出に関するデータを積み重ねております。生体影響に関しては、東京電力福島第一原発事故においても多くの方々が心配された子どもへの影響や次世代への影響の解明に向けて、分子生物学や病理学など広い視野で研究を進めております。

令和4年度から新しい中期計画が始まりました。大型再処理施設の稼働を見据えて、異常放出時等の対応に関する調査研究や、社会的に関心の高いトリチウムの生体影響に関する調査研究に着手いたしました。これまで以上に放射線に関する正確な情報を地域の方々にわかりやすく提供し、双方向のコミュニケーションを通して理解醸成を進めてまいります。さらに、研究所の資産である特徴のある施設やこれまで蓄積したデータやノウハウをこの分野の大学や研究所、国際機関と共有し連携を強化し、成果の最大化を進めてまいります。

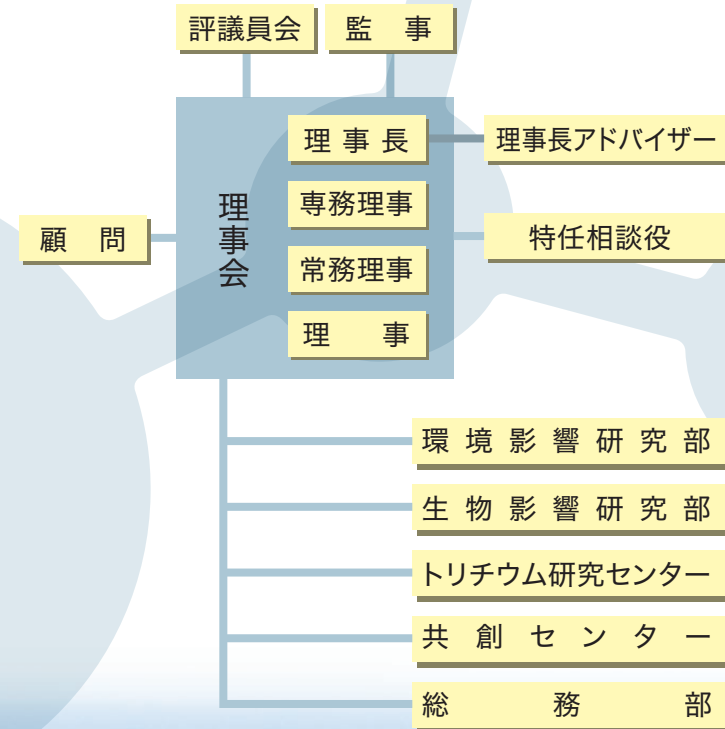
国際的にも地域にも貢献できる研究所として、アカデミアや行政、地域の方々のお力をお借りしながら、進化していきたいと思っております。

引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 環境科学技術研究所

理事長 島田 義也

■組織図



陸奥湾

本所



大型再処理施設

尾駱沼(おぶちぬま)

先端分子生物科学研究センター
(AMBIC)

第1研究棟

第2研究棟

■第1研究棟(平成16年完成)
■第2研究棟(平成20年完成)

太平洋

Institute
for
Environmental
Sciences